

年月日 平日＝2010年06月10日（木・晴）
休日＝2010年06月27日（日・曇時々小雨）

回数 2009期・第13回平日巡礼＝24名
2010期・第2回休日巡礼＝29名

巡礼寺・順 ●五十五番札所・修福寺（しゅうふくじ）

- * 本尊・薬師如来 ・山号 飯盛山 ・曹洞宗 ・草創・不明
- * 別棟の経蔵に収められている、「紙本墨書大般若経」は国指定重要文化財です。開創年代は不明です、南伊豆青市に真言宗・大安寺（奈良市）の別院として開創、石門寺と称した。その後、移転を繰り返し、1534（天文三年）修福寺と改称、曹洞宗に改宗し現在に至る。

●五十六番札所・正善寺（しょうぜんじ）

- * 本尊・薬師如来（大日如来） ・山号 養珠山 ・曹洞宗（修福末寺） 草創・不明 * 大日如来像は運慶の作
- * 開創年代は不明です、真言宗の寺として開創、詳善寺と称した1624（寛永年間）修福寺五世僧、秀雪が曹洞宗に改宗して、現在に至る。
- * 寺の本尊として祀ってあるのは、薬師如来です。宗教法人上は大日如来が本尊です、この大日如来像は、運慶の作と言われてます。

●五十七番札所 青龍寺（せいりゅうじ）

- * 本尊・観世音菩薩 ・山号 東海山 ・臨濟宗（建長寺・末寺）
・草創・1225（嘉禄元年） 寺宝・白隠禅師直筆「宝鏡窟の記」
- * 開創後に、火災により一切を焼失、1397（応永四年）頃、再興とあるが、詳細は不明です。現在の本堂は、1720（享保5年）築です。

*寺宝として、白隠禅師直筆「宝鏡窟の記」他に白隠禅師直筆の書が保存されている。

●五十八番札所 正眼寺(しょうげんじ)・・・六十二番・法伝寺朱印

*本尊・正観世音菩薩 ・山号 稻荷山 ・臨濟宗(建長寺・末寺) ・草創・1351(観応五年)

*開創後に、衰退していたのを、僧、獲麟が再興、1890(明治二十三年) 近くにあった、守源寺を併合する。

距離(約) 4 Km+2 Km+1.5 Km+4 Km+4 Km=約15.5 Km

タイム 裾野市役所 5:00—下土狩駅 5:20—田牛(とうじ) 7:50—南伊豆歩道—弓ヶ浜—55番・修福寺 9:05~20—56番・正善寺 9:55~10:05—57番・青龍寺 10:25~45—大瀬集落 11:30~13:00(昼食・休憩)—正眼寺 13:45~14:05—あいあい岬 15:00—温泉

温泉 下賀茂・銀の湯=900—(団体割引で720—)

前回終点の田牛(とうじ)集落から出発。平日は晴天、休日は雨模様。ここは陸路を行くと遠回りなので、田牛から弓ヶ浜を結ぶ南伊豆歩道を利用。巡礼は味気ない道路より、このような自然歩道が相応しい。

民宿が多い海岸から少し山っぽい小道を進んで行くと崖の岩を巧みに利用した面白造形があった。薄暗いとちょっと驚くだろう。



歩道入口



面白造形

歩道を更に進むと「盥岬」(たらい)の案内がある。巡礼といってもお寺関係だけでなく、土地土地の特色を学んで行きたい。そんな訳で岬に寄り道する。タライ岬の文字が難しいと笑う。伊豆七島がよく見えるとあったが、中々、七島が覚えられない。ちなみに七島は、大島・利島・新島・神津島・三宅島・御蔵島・八丈島。



タライ岬



アジサイが咲き乱れる歩道を抜けると逢ヶ浜に出る。少し先が弓ヶ浜。ここは伊豆で一番美しい海岸ではないか。浜の上に休憩場とトイレがあるのでしばし休憩。ここまで来ると五十五番札所・修福寺は近い。



修福寺



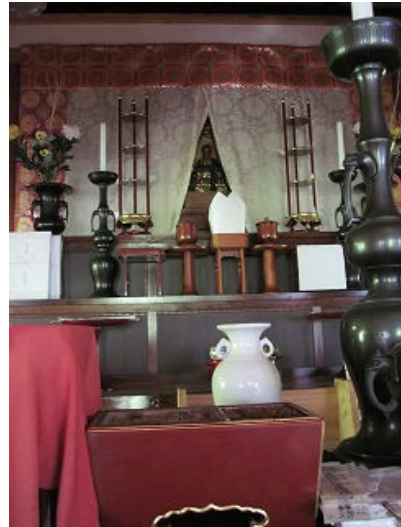
苔むした階段を上り山門を潜る。休日時、子どもたちが習字をしていた。月に1回ほどやっているようだ。子どもは来客に喜び、本堂で悪垂れる。木魚を叩いたり経典をめくったり他愛はない。

ここから青野川左岸の堤防を遡り、五十六番札所・正善寺に向かう。ここは現在無住職で茂みのなかにひっそりと建っていた。本堂の鍵は開いているので本堂でお勤め。窓も開け淀んだ空気を入れ替える。

右奥の部屋には、檀家が描いた仏様と般若心経の掛け軸があった。ビッシリと見事な文字と仏絵が書かれていた。



正善寺



寺を辞し、今度は青野川右岸を南下し五十七番札所・青龍寺目指す。1 Kmの近距離。割合少ない臨済宗のお寺。長い山門までの石畳みを辿り雰囲気のよい境内に導かれる。平日・休日とも美味しいお茶を頂いた。



青龍寺





青龍寺を後にする。手石から下流（したる）を通過し石廊崎に向かう。この辺は同じ静岡県人でもあまり訪れない所だ。手石には、「手石の阿弥陀窟」がある。

南伊豆町手石（ていし）には、阿弥陀窟と呼ばれる海蝕洞窟があります。その阿弥陀窟には、限られた条件の下でしかお姿を現さない阿弥陀三尊がおられるといわれています。

阿弥陀窟に入ることができるのは、初夏の大潮の昼近く。潮位が下がり、風がなく波が穏やかな時にだけ、小舟で入ることができます。

阿弥陀窟の中には、金色に輝く弥陀菩薩、勢至菩薩、観音菩薩の三尊が出現するといわれます。はたしてその三尊はどんなお姿なのでしょう。大きさは？ 形は？ 色は？ 阿弥陀様は、外国のゴーストのようにゆらゆらとした霧が観音様の姿をして現れるのでしょうか。それとも3次元ホログラムのように宙に浮いた姿が見られるのでしょうか。あるいは海面で反射された光が収束して像を結ぶのでしょうか...？

資料を読んでも、いっこうに具体的な姿を思い浮かべることはできません。ぜひ一度、そのお姿を拝んでみたい、その思いは募るばかりでした。

今から1年前の5月、年に一度の一般参拝客を募るツアーが計画されたので申し込んだのですが、前日になって「波が高いので中止します」との無情の電話が...。泣く泣くあきらめました。しかし今年もまた手石の民宿組合の厚意によって計画されました。新聞でその企画を読んですぐに申し込みをした私。今年こそはと、満を持して臨みました。

下田市在住S氏HP「下田街道」より
詳しくは=<http://kodou.lolipop.jp/amidakutu1.htm>

平日時、下流付近では中学生たちが臨海学校でたくさん浜に出ていた。この時期、あちらこちらで多く見かける。民宿軒先には、子どもたちが開いたイカ

がズラーと干してあった。イカには誰のものか分かるように、番号がしっかり記されていた。



下流付近



疲れが見え昼食時間が近づいたので、トイレがある大瀬の岬で昼食とする。平日・休日とも歩きで到達出来なかったので、一旦バスに乗って向かった。

岬は静かで割合良い所。昼食を早く済ませて浜で貝拾いに興じる会員も何人かいた。特にKさんはいつも道端の山菜を採ったり、今回も意欲的に貝を拾い明朝味噌汁を旦那様に作って上げるとノロケた。

昼食後、再びバスで先ほどの場所に戻り巡礼を開始。道は大瀬から石廊崎に向かう。ほどなく「アロエセンター」向かいの「旭洋丸水産・ひもの製造部」の店に着く。ここではサバ・サンマ・イカなど店の前で焼いてくれ自由に食べられるサービスをしている。当然、店は見返りでお土産購入を期待だ。何人かは「サバの骨」などを購入。



石廊崎の港に下る手前からトンネルを抜けると五十八番札所・正眼寺に到着。道から高い場所なので長い坂を上る。今は引退している現住職の父親は二年前前雨の中巡礼で訪れたことをよく覚えていてくれた。(前ページ写真)

休日時は現在の住職が草刈り機を操り、汗びっしょりで参道の草を刈っていた。寺を辞し15時まで巡礼を続け中木地先で今日は終了。段々暑くなり巡礼は大変になる。7～9月が頑張りどころだ。今日の温泉は下賀茂・銀の湯。平日時は貸し切り状態だった。



正眼寺、現在の住職



平日巡礼



休日巡礼